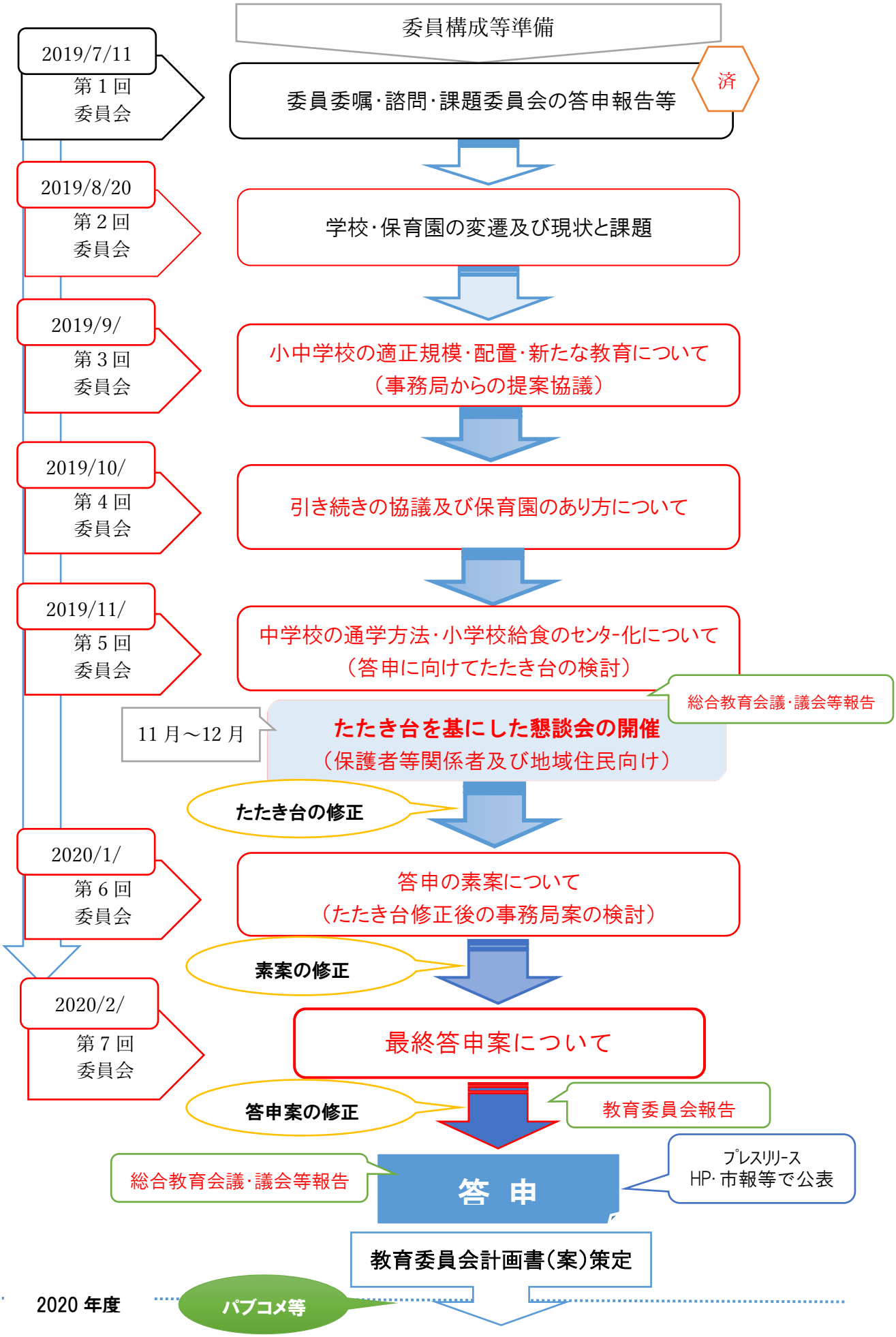
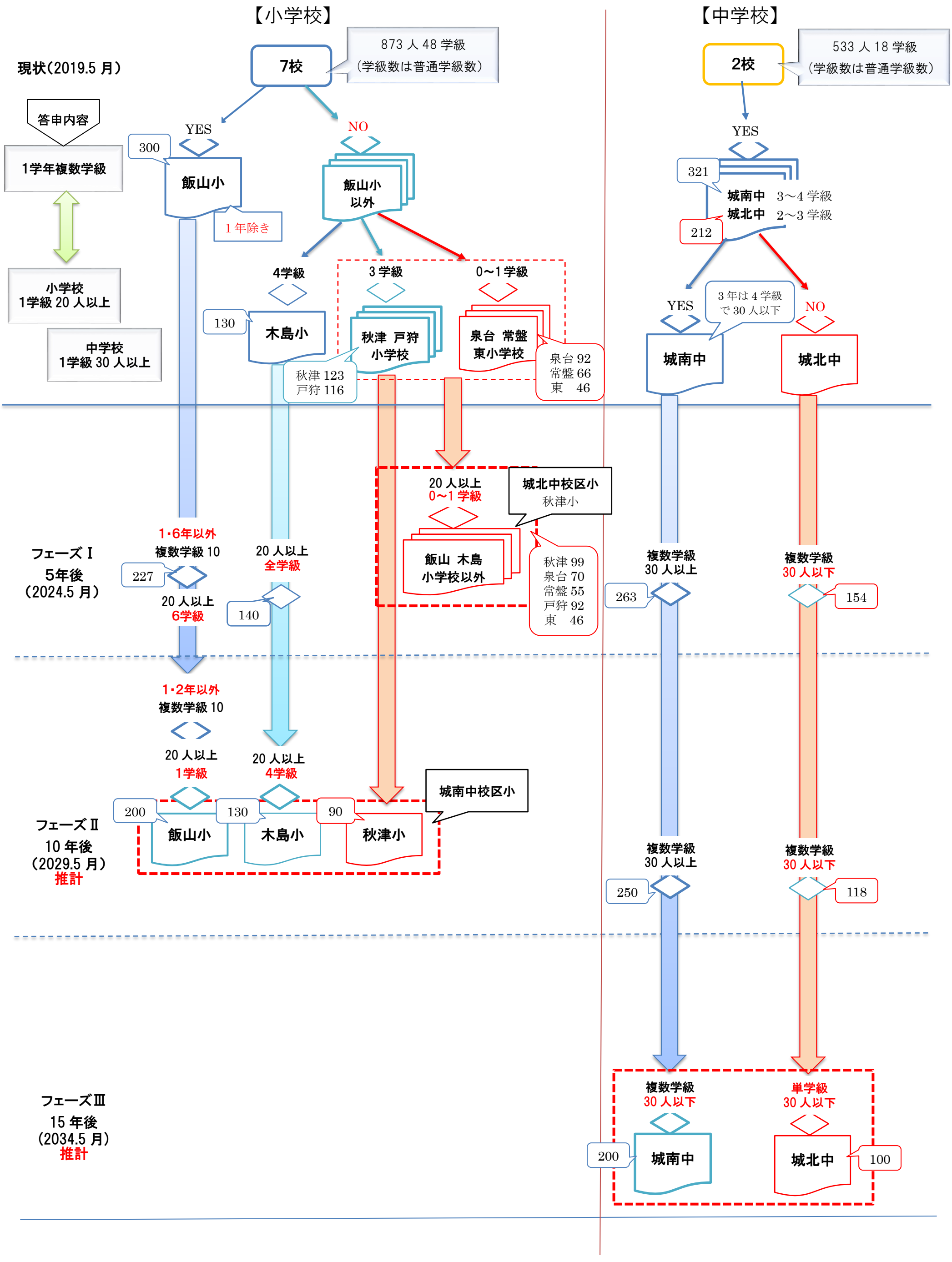
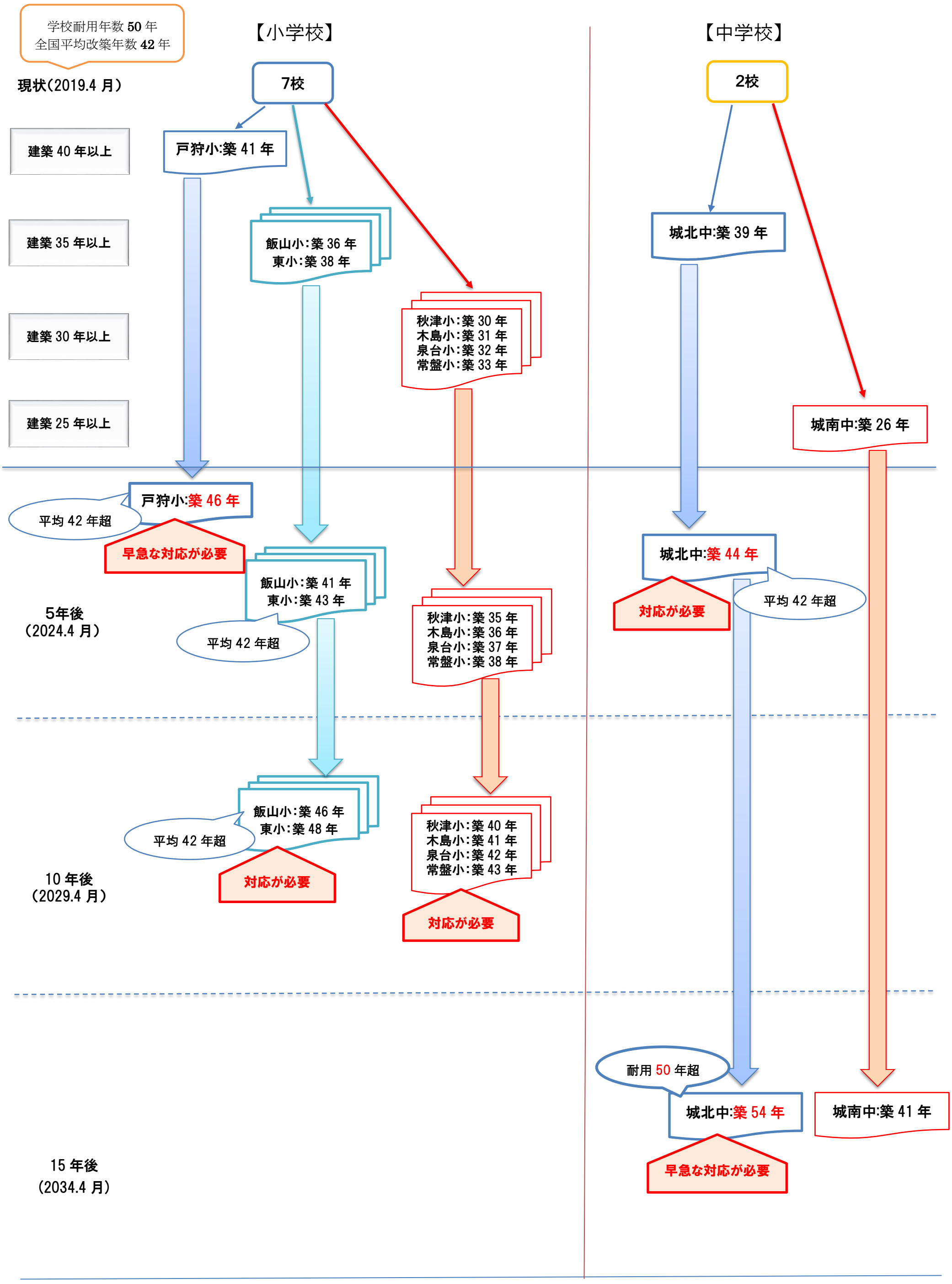
飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会の進め方（事務局案）



小中学校適正規模等検討フロー



小中学校適正規模等検討フロー（老朽化）



中規模校・小規模校のメリットとデメリット

中規模校

	メリット	デメリット
学習面	● 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらにのばしやすい。 ● 児童数・生徒数、教職員数がある程度多いためグループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員（理科等）による指導など、多様な学習指導形態を取りやすい。 ● 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ● 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	● 全教職員による各児童・生徒ひとり一人の把握が難しくなりやすい。 ● 学校行事や音楽活動等において、ひとり一人の個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	● クラス替えが出来ることから、多様な人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ● 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 ● 学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。	● 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 ● 全教職員による各児童・生徒ひとり一人の把握が難しくなりやすい。
学校運営面 財政面	● 教職員数がある程度多いため、経験、教科特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ● 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力切磋琢磨等が行いやすい。 ● 校務分掌を組織的に行いやすい。 ● 出張・研修等に参加しやすい。	● 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
その他	● PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	● 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

中規模校・小規模校のメリットとデメリット

小規模校

	メリット	デメリット
学習面	● 児童・生徒のひとり一人に目が届きやすくきめ細かな指導が行いやすい。 ● 学校行事や部活動等において、児童・生徒ひとり一人の個別の活動機会を設定しやすい。	● 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ● 単級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ● 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ● 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 ● 部活動等の設置や選択の幅が狭まりやすい。
生活面	● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ● 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ● 児童・生徒のひとり一人に目がとどきやすくきめ細かな指導が行いやすい。	● クラス替えが出来ないことから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ● 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ● 切磋琢磨する機会等が少ない。 ● 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面 財政面	● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ● 学校が一体となって活動しやすい。 ● 施設・設備の利用時間や一人あたりの備品等は使いやすい。	● 教職員数が少ないため、経験・教科・特性などの面でバランス良い配置が出来ない。 ● 学年別・教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等について、相談・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ● 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ● 教員の出張、研修等の調整が難しい。
その他	● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。 ● 災害発生等による緊急避難時に混雑が生じにくい。	● PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

「学級編成・教職員配置の基準」について

○ 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

Ⅰ　国の学級編成基準（抜粋）

１　同学年の児童・生徒で編成する通常学級

（１）小学校第１学年　　３５人

（２）小学校２～６学年　　４０人

（３）中学校１～３学年　　４０人

２　二の学年児童・生徒で編成する学級（複式学級）

（１）小学校第１学年を含む場合　　８人

その他　１６人

（２）中学校全学年　　８人

３　飛び複式学級

（１）小学校第１学年を含む場合　　４人

その他　　８人

（２）中学校全学年　　４人

Ⅱ　長野県の市町村立小・中学校 学級編成基準（抜粋）

１　同学年の児童・生徒で編成する通常学級

（１）小学校第１学年　　３５人

（２）小学校２～６学年　　３５人

（３）中学校１～３学年　　３５人

２　二の学年児童・生徒で編成する学級（複式学級）

（１）小学校第１学年を含む場合　　８人

その他　　８人

（２）中学校全学年　　８人

３　飛び複式学級

（１）小学校第１学年を含む場合　　４人

その他　　４人

（２）中学校全学年　　４人

Ⅲ　教員配当基準

（H9.4.1県が基準を定める）

小学校教員配当基準

学級数	校長	教頭	担任	専科	合計
1	1	1	1		3
2	1	1	2		4
3	1	1	3		5
4	1	1	4		6
5	1	1	5		7
6	1	1	6	1	9
7	1	1	7	1	10
8	1	1	8	1	11
9	1	1	9	1	12
10	1	1	10	1	13
11	1	1	11	1	14
12	1	1	12	1	15
13	1	1	13	1	16
14	1	1	14	2	18
15	1	1	15	2	19
16	1	1	16	2	20
17	1	1	17	2	21
18	1	1	18	2	22
19	1	1	19	2	23
20	1	1	20	2	24

中学校教員配当基準

学級数	校長	教頭	担任	専科	生徒指導	合計
1	1	1	1			3
2	1	1	2	2		6
3	1	1	3	4		9
4	1	1	4	3		9
5	1	1	5	3		10
6	1	1	6	3		11
7	1	1	7	4		13
8	1	1	8	5		15
9	1	1	9	5		16
10	1	1	10	6		18
11	1	1	11	6		19
12	1	1	12	6		20
13	1	1	13	6		21
14	1	1	14	7		23
15	1	1	15	7		24
16	1	1	16	7	1	26
17	1	1	17	8	1	28
18	1	1	18	9	1	30
19	1	1	19	10	1	32
20	1	1	20	10	1	33

※小学校の専科教員数は国の学級編成基準による。中学校の専科・生徒指導教員数は県の学級編成基準による。

※専科とは、音楽や理科などの教科指導を専門にし、学級担任をしない教員。

※生徒指導とは、生徒指導を中心に担当するために配置される教員。

上記は長野県が県費の正規教員として配当する教員数の基本的な枠組みを示しています。

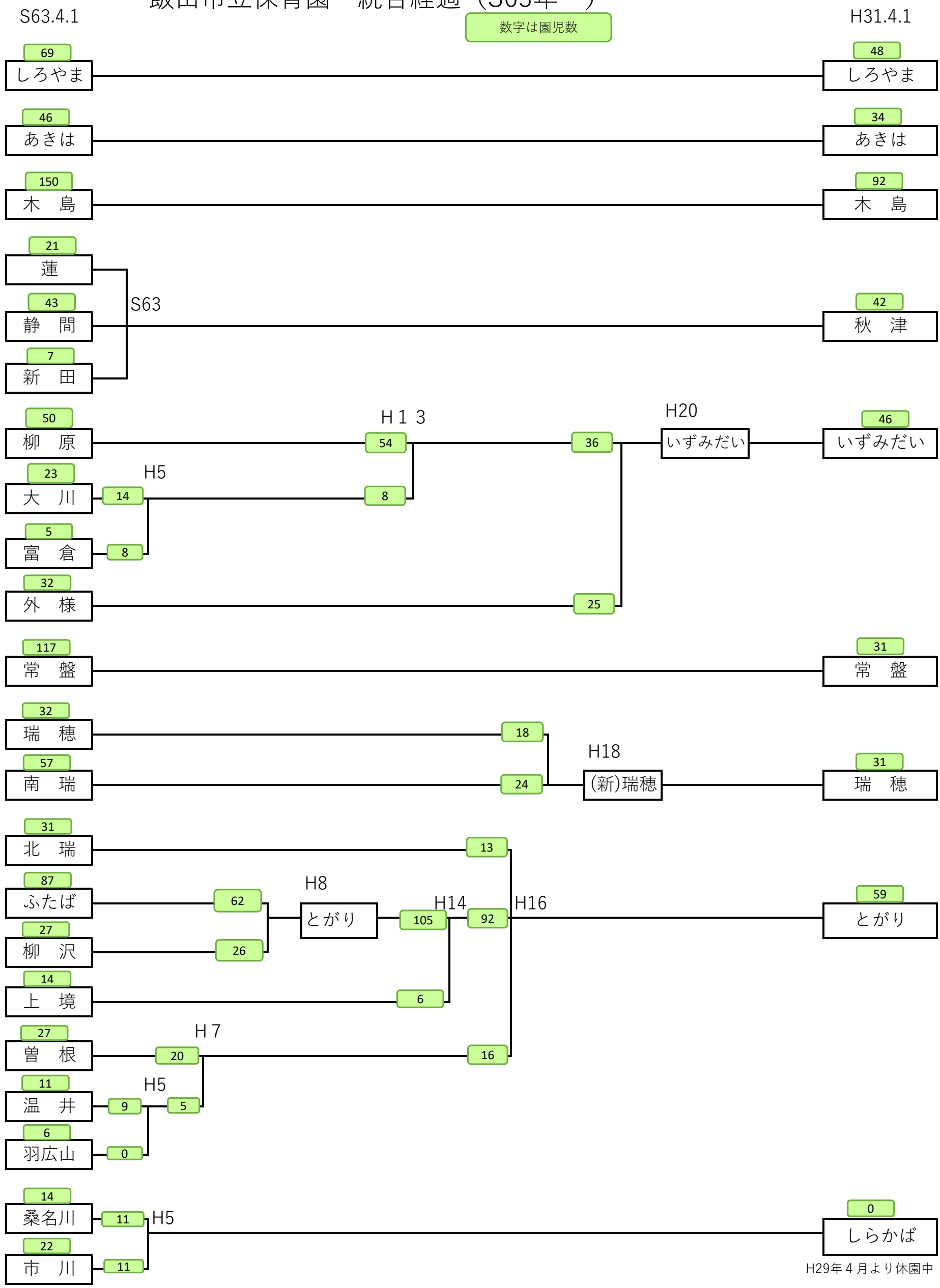
実際の教員配置においては、学校の状況による県の加配教員（非正規や非常勤）、市の加配教員等（非正規や非常勤等）が存在します。

また、国の学級編成基準（４０人）と県基準（３５人）により学級数に差が生じる場合、教員配置数にも影響することとなります。

【参考】令和元年度教員配置数（養護教諭含む）

学校名	学級数	県費常勤	専科･加配	市費加配	計	備　考
飯山小	15(普 12 特 3)	18	4	4	26	通級分除く
木島小	8(普 6 特 2)	11	1	2	14	
東　小	7(普 6 特 1)	10	1	1	12	

飯山市立保育園　統合経過（S63年～）



飯山市小学校児童数の推移・学校統合の変遷

保育園(地区)	秋津	しろやまあきは	木島	常盤	いずみだい			瑞穂		とがり						

年　度		秋津小	飯山小	木島小	常盤小	柳原小	富倉小 ～泉台小	外様小	犬飼小	瑞穂小 ～東小	柏尾小	太田小 ～戸狩小	常盤小 照里分校	一山小	温井小	岡山小	計
S39	1964	424	1,003	444	502	341	149	210	196	153	107	408	常盤小に含む	66	93	246	4,342
S40	1965	402	984	427	486	314	134	193	187	146	97	371		65	90	224	4,120
S41	1966	372	948	414	439	304	124	184	163	132	87	352		55	79	192	3,845
S42	1967	342	983	385	393	275	116	163	159	125	80	329		56	63	178	3,647
S43	1968	313	921	387	390	263	103	148	149	118	78	295		52	62	157	3,436
S44	1969	290	923	362	386	236	98	142	143	107	74	279		49	48	150	3,287
S45	1970	260	898	344	370	231	94	134	143	100	80	277		53	44	152	3,180
S46	1971	239	915	319	346	235	90	132	125	87	79	267		47	35	147	3,063
S47	1972	220	909	309	338	219	80	123	120	84	81	246		50	35	149	2,963
S48	1973	196	898	313	331	214	71	121	115	84	80	228		46	34	137	2,868
S49	1974	194	882	307	319	200	60	118	112	82	76	224		40	21	132	2,767
S50	1975	188	896	309	297	191	55	112	104	79	75	215		38	18	131	2,708
S51	1976	186	907	303	299	178	44	106	88	82	70	210		30	19	120	2,642
S52	1977	184	921	283	224	162	38	96	82	83	73	204	78	32	18	109	2,587
S53	1978	184	905	277	209	145	35	97	80	80		420	S53～戸狩小			105	2,537
S54	1979	208	941	268	220	146	37	86	77	81		421				97	2,582
S55	1980	210	964	261	217	149	38	90		166		409				89	2,593
S56	1981	213	923	255	231	149	37	91	S55～東小	162		408				90	2,559
S57	1982	219	911	268	240	135	43	91		163		403				95	2,568
S58	1983	217	891	272	246	138	38	93		179		409				93	2,576
S59	1984	214	895	268	234	143	35	94		179		419				90	2,571
S60	1985	201	860	271	219	150	30	100		183		417				86	2,517
S61	1986	195	803	272	213	150	27	95		176		418				85	2,434
S62	1987	197	767	271	205		266	S62～泉台小		185		404				70	2,365
S63	1988	187	733	271	196		268			178		411				55	2,299
H元	1989	168	710	272	205		270			165		398				53	2,241
H2	1990	160	674	289	216		250			160		394				56	2,199
H3	1991	164	659	295	221		226			151		387				51	2,154
H4	1992	154	629	289	225		214			155		371				53	2,090
H5	1993	145	640	303	230		201			146		374				54	2,093
H6	1994	142	613	303	228		190			146		354				53	2,029
H7	1995	152	615	298	211		187			139		338				47	1,987
H8	1996	150	572	285	205		191			126		315				45	1,889
H9	1997	148	574	275	196		192			111		291				39	1,826
H10	1998	155	572	277	180		188			106		282				34	1,794
H11	1999	165	544	244	171		192			98		266				37	1,717
H12	2000	172	537	238	161		187			94		251				34	1,674
H13	2001	160	551	239	161		183			93		247				38	1,672
H14	2002	160	565	222	153		170			81		241				38	1,630
H15	2003	152	549	218	148		166			89		240				39	1,601
H16	2004	140	552	203	143		164			79		241				44	1,566
H17	2005	133	544	193	141		147			84		240				39	1,521
H18	2006	126	550	174	136		153			87		233				34	1,493
H19	2007	139	514	159	137		147			80		221				32	1,429
H20	2008	140	501	158	127		142			85		217				28	1,398
H21	2009	141	464	148	119		130			77		201				25	1,305
H22	2010	147	448	135	122		115			77		180				18	1,242
H23	2011	140	445	130	115		118			69		181				14	1,212
H24	2012	145	425	129	114		103			68		178				14	1,176
H25	2013	141	407	134	99		96			65		166				13	1,121
H26	2014	136	411	126	95		92			50		155				12	1,077
H27	2015	138	398	133	90		97			52		155				10	1,073
H28	2016	135	361	132	83		90			54		147				H28 戸狩小へ統合	1,002
H29	2017	133	340	135	74		88			46		141					957
H30	2018	127	337	136	70		92			49		121					932
R元	2019	123	300	130	66		92			46		116					873
1965年度を100とした指数	1975	47	91	72	61	61	41	58	56	54	77	58		58	20	58	66
	1985	50	87	63	45	48	22	52	55		67					38	61
	1995	38	63	70	43	29			42		54					21	48
	2005	33	55	45	29	23			25		39					17	37
	2015	34	40	31	19	15			16		25					4	26
	2025(推計)	25	24	32	12	10			14		15						18

中学校通学区	城南中	城北中